

Open Lecture

## **The Politics of Modern Honor**

Lecturer : Prof. Haig Patapan (Professor, Centre for Governance and Public Policy, School of  
Government and International Relations, Griffith University)

Date : April 11, (Mon.), 15:30-17:00

Place : ERBI-347

In this open lecture, Prof. Patapan presented a paper on a contemporary and significant political topic, allowing engagement with students and staff. The lecture is also aimed at fostering and supporting future collaboration and research.

(Reported and convened by Takashi Kibe)

## 国際企業法務と企業の社会的責任： ニューヨークの経験から

講演者：伊藤 豊（西村あさひ法律事務所）

日 時：2016年4月21日（木）、10：10－12：40

場 所：H-251

企業は様々な観点から国際化の中で日本法と各国法との使い分けを行っている。講演者は、国内外の勤務経験を踏まえ、国際企業法務の最前線の状況について講演を行う。また、企業の社会的責任、そしてそういった企業に関わる弁護士の社会的責任について触れる。国際企業法務といっても、多くの事案は国内的な問題である。それぞれの国の事柄をよく知り、よく理解しなければ解決はできない。この点について、ニューヨークのシュルティ・ロス・アンド・ゼイベル法律事務所における勤務経験も踏まえ、米国における一般的企業法務の経験を踏まえて国内企業法務と海外企業とのかわりやそれらの問題点について講演を行う。経済、経営や法律を学ぶ学生にとって、企業と法は切っても切り離せない関係にある。実際に企業法務に国際的な観点からも関わり、米国での勤務経験もある弁護士の講演を聞き、また様々な疑問を弁護士に対して行う機会は大変貴重なものであり、経済、経営、法律にかかわるICUの学生、教員はもとより、その他国際関係全般に関係するICUの学生、教職員にとって貴重な学びの機会となると考えられる

（報告・招聘：寺田麻佑）

公開講演会

## 行動経済学入門

講演者：大垣 昌夫（慶応義塾大学経済学部教授）

日 時：2016年5月11日（水）、16：30－17：40

場 所：H-315

行動経済学は、心理学など他分野の知見を経済学を導入、「どうすれば無駄遣いをやめることができるか、」というような身近なことから、「いかに生きるべきか」というような深遠なことまで、自由に探究することのできる学問です。2002年には行動経済学の創始に関わる研究でダニエル・カーネマン教授が、2013年には行動ファイナンスの研究でロバート・シラー教授がノーベル経済学賞を受賞しました。本講演では、基礎を説明し、今後の発展や経済政策への応用を展望することで、行動経済学を紹介します。

（報告・招聘：黄仁相）

## アグロエコロジーと食料主権 ——ラテンアメリカの事例を通して——

講演者：ミゲル・アルティエリ（カリフォルニア大学バークレー校教授）

日 時：2016年5月16日、13：55－15：30

場 所：ダイアログハウス国際会議場

食と農の分断また食のグローバル化を背景に、食料の流れが大きく変わりつつある。政策の現場においては食料の安全保障や食料自給率の向上などが盛んに議論されているものの、その目標を達成するための道筋が明確には見えない。そこで本講演では、この食料安全保障の問題をどう捉えるのか、どのような道筋でこの問題の解決の糸口を見つけるのか、アグロエコロジーという観点からオルタナティブな視点を提供していただいた。

（報告・招聘：山口富子）

公開講演会

## EU の開発援助協力

講演者：山本愛一郎（一般財団法人・日本国際協力センター（JICE）北米・欧州室長、  
JICA 欧州連合元首席駐在員）

日 時：2016 年 5 月 19 日（木）、11：10－12：10

場 所：H-152

EU とその加盟諸国は、世界最大規模の開発援助主体であり、最も大きな影響力を誇ります。しかしその詳細はあまり知られていません。本講演会では、JICA 欧州連合首席駐在員としてブリュッセルに滞在されていた山本愛一郎講師に、EU の開発援助協力の実情を紹介していただきました。

（報告・招聘：植田隆子）

Open Lecture

## **The conflict between historical memories over Hiroshima and Nagasaki**

Lecturer: Yuki Ando (Waseda University, Institute of Asia Pacific Studies)

Date: May 23, 2016 (Thu.), 13:15-15:00

Place: H-367

The atomic bombing of Hiroshima and Nagasaki in August 1945 had been represented as the tragic symbol of the defeat and damage of Asia-Pacific war for a long time in postwar Japan. It happened in two local cities, but it had been narrated as if it were the national memory of Japan. On the contrary, the memory of the Battle in Okinawa or the memory of the escape from Manchuria had not been shared like that. What does it mean? The national narrative of Hiroshima and Nagasaki had been constructed mainly through the education and the mass media. However, the Smithsonian Controversy in 1994-1995 exposed the distance of historical recognition between U.S. and Japan. Consequently, the perspective of memory construction in Hiroshima and Nagasaki changed a lot. They started to take a serious look at the different memories in U.S. and Asian countries. Now they are struggling with the task to draw out the universal lessons from Hiroshima and Nagasaki.

(Reported and convened by Stephen Robert Nagy)

Open Lecture

## **Taken for Granted: Semiotic Asymmetry and the Social Construction of Normality**

Lecturer: Eviatar Zerubavel (Professor, Rutgers University)

Date: June 1, 2016 (Wed.), 15:10-16:20

Place: H-152

In this open lecture co-hosted by JICUF, Prof. Zerubavel presented his latest research topic in the field of cognitive psychology, based on his major work.

(Reported and convened by Christopher Bondy)

公開講演会

自民党改憲草案の目指すもの  
—— この国をどのように変えようとしているのか ——

講演者：稲 正樹（元国際基督教大学教授）

日 時：2016年6月10日（金）、13：15－15：00

場 所：H-252

憲法改正がこの夏の参議院議員選挙の大きな争点となる今、自民党の憲法改正法案により日本の民主主義がどのように変わる可能性があるのか、憲法学者の稲先生をお招きし、読み解いていただきました。

（報告・招聘：大森佐和）